アドリブ＝雑談

アドリブは、どうやら部分に囚われてしまうとダメらしい、全体を見なければいけない、ということが分かってきました。ところで、この「部分（フレーズ）と全体」という観点でアドリブを考えると、あることとの共通点が見出せます。それは会話です。実際、「アドリブとは会話である」と公言する方もたくさんおられます。しかし、会話にも様々なシチュエイションがあるので、本書では「雑談」としておきましょう。なんとなく、アドリブのイメージとも合致します。

さて、アドリブを「雑談」だと考えてみると、色んなことが見えてきます。

例えば、四、五人で雑談をしているとします。誰が何の話を、どれだけしても構いませんし、話す順番も自由です。また、スピーチと違って、話し手と聴き手がはっきりと分かれているわけでもありません。誰かの話しに合いの手や突っ込みを自由に入れることができます。まさにアドリブですよね。では、上手い雑談、聴いていて面白い、もっと聴きたいと思える雑談とはどんなものでしょうか？

①言葉がわかりやすい

インテリぶった人はやたらと難かしい言葉を使いたがります。専門家同士なら別に構いませんが、そうでない人に対してやたらと難かしい言葉を使うのはNGです。意味の分からない言葉や使い慣れていない言葉がたくさん出てくると、聞いていてイライラしてきます。もちろん言葉が分からないので、話の内容もよく分かりません。これでは駄目ですよね。

逆に、**分かりやすい言葉を使って話してもらうと、ストレスも少なく、ちょっと難かしい話でも、意外なほどすんなりと理解できたりします**。

②話し方にリズムがある

仮にこちらが聞き役に徹していたとしても、相手がこちらに息もつかせないほど一方的にまくしたててくると、疲れますよね。

今考察しているテーマは「雑談」です。雑談の場合は、話を聞いている側も無意識のうちに、相槌や、反論、突っ込みを入れるタイミングを探っています。しかし、そうしたことを一切封じるかのような**マシンガントークをされると興醒め**で、面白いとはとうてい思えません。逆に、こちら（聞き手）の相槌や反論を上手に汲み取りながら話しを進められると、楽しく会話が進みます。

③話題に一貫性がある（ガールトークしない）

さっきまでスポーツの話をしていたのに、いきなり映画の話になり、政治の話に飛び・・・と、話題が何の脈略もなしにあっちこっちに飛んでしまうと、聞いている方はいったい今何の話をしているのか分からずに、混乱してしまいます。いわゆる「ガールトーク」と呼ばれる話し方で、名前

の通り女性に多いようです。女性同士だとそれでもいいのかもしれませんが、今は一般論として雑談を考察しているので、やはりこれもNGです。スポーツならスポーツ、政治なら政治と**一貫して話を進めていき、流れに沿って次の話題に自然に移行する方が、聞いていて安心できます**。とはいえ、「女性はガールトークするからアドリブに向いていない」ということではありませんので、女性の皆さんも安心してアドリブの習得に励んでください。

④話に方向性がある

これは「話題の一貫性」と似ていますが、ちょっと違います。

簡単に言うと、「オチ」のある話のことです。お笑いに限らず、**最終的にどうなったのか、がある話と、それがない話では、面白さは全然違ってきます**。また、筆者は関西出身なのですが、関西（特に大阪）では、「オチ」がなければ話をしてはいけない、という暗黙のルールがあるほどです。この「オチ」が話の到達点で、そこに向かって話しを進めていくことで、方向性がはっきりします。そうすると、聞いている方もどんどん話に引き込まれてしまいます。

と、上記の四点をしっかりと踏まえていれば、だいたい上手な雑談だと言えるのではないでしょうか？　①と②はどちらかというと自分が使う言葉（フレーズ）に関して、③と④は話の最初から最後まで（全体）に関してです。

とはいえ、

『じゃあこれらを踏まえて上手に雑談をしてください』

といきなり言われても、すぐにはできませんよね。母国語の日本語でもそう簡単には無理でしょう。

楽器を演奏することはよく、外国語を覚えることに例えられます。**覚えたての外国語でいきなり上手に雑談ができないように、覚えたての楽器では、いきなり上手にアドリブはできません**。やはり段階が必要だということがここでも分かります。

さて、筆者はアドリブ＝雑談だと述べました。では今度はこれらのポイントをもう一度演奏に置き換えてみましょう。